

平成26年2月15日（土）の「仏教女性の集い」

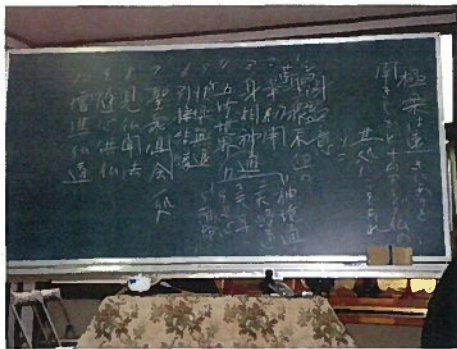
前日の雪の風情は無くなりましたが、冷たい雨が降り続いています。そのような悪天候の中、大勢の方が参加されて「仏教女性の集い」は開催されました。

近藤先生は御法話を始めるに先立ち、
仏道を学ぶと言う事は自己を学ぶと言う事です。
一般の人がどうのではなく、私がどうあるかを
学ぶ事です。と仰っておられました。



御法話は、法然上人御法語後篇 第29「一蓮托生」
日常生活の中でもよく使われる言葉です。

私は今までこの言葉の意味を深く考えた事が無く、蓮の字を連とイメージして過ごしていたので、その意味合はずいぶんと違ったものでした。法然上人は、「会者別離の中で宿縁があれば必ず同一蓮に座す」どれほど距離が離れて過ごしていようと、また、あの世とこの世に離れていようと、お念仏を通じて繋がっていればすぐ傍に居るのと同じ。今の別れは暫くのものであり、お浄土での再会はすぐそこにある。そうでなければ身はすぐ傍にいても居ないのと同じ。なぜなら、「三業」が違うのだからと。また近藤先生は、仏国は仏道に関心が無い人にとっては非常に遠い所だが、常に学ぶ人にとっては近い所。南無阿弥陀仏と唱える事で弥陀の本願に込められた力で全てが生かされるとお話しされました。



そして、往生要集にある「これ浄土の楽しみなり」といわれる10個のお浄土での楽しみをお話頂きました。

聖衆来迎の楽しみから始まり、蓮の花が開くのを見る楽しみ・悟りを開き特別な力を発揮出来る楽しみ・眼耳鼻舌身の五つが浄土のすべてを受け取る楽しみ・楽しみが無くなる事が無く・後から来る人を導く楽しみ・みんなが極楽で会い集う楽しみ・仏に会い教えを聞ける楽しみ・心に従いいつでもどこでも仏に供養出来る楽しみ・仏道修行を伸ばし仏となる事が出来る楽しみと連なります。

そして、往生要集にある「これ浄土の楽しみなり」といわれる10個のお浄土での楽しみをお話頂きました。聖衆来迎の楽しみから始まり、蓮の花が開くのを見る楽しみ・悟りを開き特別な力を発揮出来る楽しみ・眼耳鼻舌身の五つが浄土のすべてを受け取る楽しみ・楽しみが無くなる事が無く・後から来る人を導く楽しみ・みんなが極楽で会い集う楽しみ・仏に会い教えを聞ける楽しみ・心に従いいつでもどこでも仏に供養出来る楽しみ・仏道修行を伸ばし仏となる事が出来る楽しみと連なります。

このように毎回判りやすくお話し頂くと、自分だけではなかなか阿弥陀様に近づいていただけない感がある私にも、ただひたすらに唱える日々のお念仏の有り難さや生かされている自分がある事を再認識できて心安まります。自分だけでは難しいと感じる事も「仏任せの身の安さ」でお念仏を申す楽しさが増していきます。(参加者感想 K. I)



阿弥陀様に供えられたお花も少しの春を感じさせてくれます。

今日のお茶菓子は「水仙」 別名 雪中花です。

寒い中にも春が間近に来ているようです。いつもの事ながら、座談会は参加者の雑談の中にも日々を過ごす心構えを身体に浸透させて行くものとなりました。

次回の「仏教女性の集い」は平成26年3月15日です。

「仏教女性の集い」は毎月第3土曜日、1時～4時

参加費 1,000円 宗教・宗派は問いません。

条件は女性であることだけです。

多数のご参加お待ちしております。

市バス[知恩院前]下車、東へ徒歩150m

『吉水尼僧庵』(旧尼僧道場跡)で開催致しております。

問い合わせは 隆彦院 075-561-7581まで

「仏教女性の集い」の様子は浄土宗吉水会のホームページに掲載

<お知らせ>

近藤先生がご法話下さいました法然上人御法語「前編」が今年出版されます。